

本事業では、淀川の持つ歴史、文化、生活、インフラ等の、様々な側面を観光資源ととらえて、淀川の魅力を調査し、このような資源を深く知り体験できるコンテンツに磨き上げるために「舟運」をどのように活用できるのか、体制も含めて検討を行い、その中で、**インバウンドの再開を見据えた「外国人（旅行者）目線での検証」、旅行商品化を見据えた「着地型プログラムづくりとその販売」**、淀川舟運及び沿川観光、イベント等の「情報の一本化（集約体制づくり）と情報発信の体制づくりの検討」、「舟運の安全対策ルール化への取組方」の視点を中心として実施した。沿川観光資源の収集・整理、淀川舟運の磨上げの検討、沿川の連携体制構築の検討、安全対策の検討を、デスクリサーチ、ヒアリング（沿川関係者、水上安全関係者等）、専門家による検討会、実証運航により実施した。

事業実施地域における背景・課題

広域的背景 2025年に開催される大阪・関西万博に向けて、関西地域では国内外からの万博来場者を関西圏内に周遊してもらう取組が求められている。近畿運輸局、近畿地方整備局、広域DMOの関西観光本部により、地域での取組をアクションプランとしてまとめ、関西全体をパビリオン化する構想が進んでいる。本事業は「テーマとストーリーで地域をつなげる」視点で取り組むとされている。

地域的課題 淀川では、近畿地方整備局による淀川大堰閘門や十三緊急船着場整備等により、沿川インフラの整備が進み、これらを活用した、沿川の賑わいづくり創出が課題となっている。

効果検証・事業評価

淀川を観光資源として活用し、観光目的地化していくためには、流域全体ではなく、淀川沿川のエリアごとに、各関係者の取組をマネジメントする機能が必要。

- マネジメントに必要な具体的な観点として、①淀川の観光資源としての認知度を向上させる「淀川水系のブランディング」、②各エリアにおける既存の枠組みなども活用した「人や組織の集結や連携、調整」、③まちあるき等に活用できる魅力的な観光資源を磨き上げる「沿川（観光）情報の編集」の3つが重要。
- 今後、国内外から観光客を呼び込むことができる具体的な旅行商品の造成や、国内外への観光プロモーションを効果的に行うためには、上記3つの観点を踏まえ、舟運会社、企画会社、旅行会社などが参画するDMO・DMC的機能を有する体制の構築が必要。

次年度以降の取組

大阪・関西万博開催の2025年を稼働期とし、それに向けて2023年度を体制準備期、2024年年度を試行期として、本事業で作成したロードマップを元に進める。

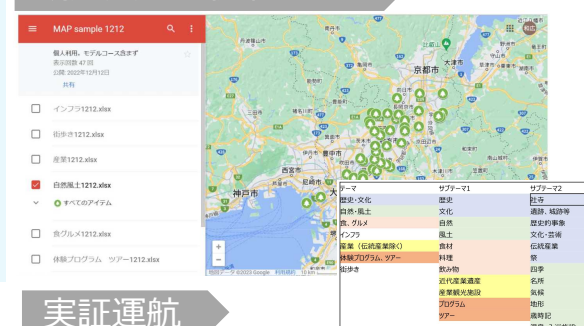
- ① 令和4年度事業で試行的に実証運航を行った枚方・十三エリアを中心に、各エリアの地域特性を勘案した上で、**DMO・DMC的機能を有する体制の構築に向けた検討**を実施。
- ② 上記体制ごとに具体的な観光コンテンツの磨き上げ及び舟運コンテンツと淀川周辺の観光資源を組み合わせた周遊ルートを構築、併せて船着き場～最寄り駅・観光施設等におけるアクセスを検証し、**沿川の観光資源と舟運をつなげた旅行商品の造成に向けた実証**を関係者と連携して実施。
- ③ 安全な航路の確保と河川が輻輳した場合の**航行ルールづくりに向けた検討**を継続的に実施。

事業概要

◆取組概要

- ①淀川を中心とした観光資源の収集・整理
- ②観光としての淀川舟運の磨き上げの検討
- ③今後の進め方・連携体制の検討
- ④実証運航、安全対策の検討
- ⑤実施結果の総括

観光資源の収集・整理



安全対策の検討

- ◆安全な運航と賑わいづくりのために必要な事象の整理

	インフラ	ルール	その他	
	運航	船着き場	運航	淀川の利用者
安全な運航	・浅水の解消 ・位置情報の共有 ・海図（チャート）の更新 ・水深情報の共有	・浅水の解消 ・運航ルール／ガイドライン ・違法な運航の禁止	・ルールの周知と参加 ・位置情報の共有 ・個人利用のゾーニング ・緊急時対応の周知	・水安協による活動の推進
賑わいづくり	・船の係留置留場所	・船の係留置留場所 ・トイレ ・待合所機能	・レジャーとクルーズのルールの見直し	・利用ルールへの周知徹底
	・港（船着場）の賑わいを創出（イベント、自治体や住民との連携、集客）	・カフェ、飲食機能 ・アクセス手法の改善 ・運航準備段階の規制や手続きの簡略化	・運航準備段階の規制や手続きの簡略化	・個人利用のゾーニング
				・港（船着き場）の賑わいを創出する企画 ・企画する機能充実 ・周辺観光との組合せ

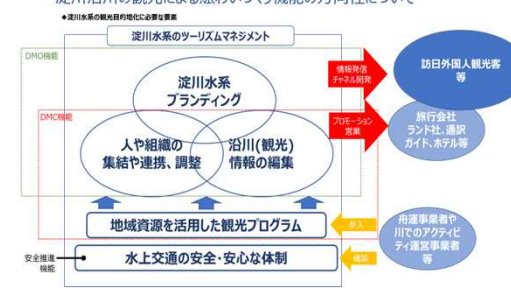
実証運航

- ◆実証運航（2/20：枚方街歩き＆枚方→大阪夕景クルーズ）



実施結果の総括

淀川沿川の観光による賑わいづくり機能の方向性について



淀川舟運観光活性化のための「ロードマップ」

	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度以降
淀川水系のブランディング		・ブランドINGの企画、検討 ・ブランドINGの推進 ・ブランドING基盤の構築	継続実施	
人や組織の集約や連携、調整	・近江「観光」関係者のネットワーキング ・近江「観光」関係者の連携	ネットワークの深掘り、拡大、地域連携事業等への実施。		
近江「観光」情報の編集	・情報収集基盤の構築 ・情報集約（一時的）の検討 ・情報発信体制の準備	・情報の検証 ・情報発信の準備	継続実施	
地域資源を活用した観光プログラム開発	・ターゲットの明確化・検討 ・商品企画・企画取組等 の準備・検討	・商品企画・テスト販売 ・商品取組推進 ・プログラムの試行（先行、先行）	継続し、エピソード開発を行い、販売体制を整備	
上記を推進する体制づくり	・DMO機能・DMO機能づくりの検討、調整、体制づくり（人材、財源、組織）	・総務事務 ・DMO機能の稼働 ・DMO機能づくり	DMO機能、DMO機能の稼働する体制づくり（人材、財源、組織）	
水上交渉の安全・安心な体制づくり	・水安監に協力し、ルールづくり との周知徹底と推進	継続して推進、必要に応じた改善・改良を実施		